

【報告】

一橋大学附属図書館 英語版利用案内のリニューアル：図書館グローバルデザイン・ワーキング・グループ平成29年度活動報告

寺島 久美子

(学術情報課利用者サービス係)

一橋大学学術・図書部

1. はじめに

一橋大学附属図書館（以下、当館）では、特定の目的を遂行するために、係を横断してワーキング・グループが立ち上げられている。こうしたワーキング・グループの一つとして、平成27（2015）年度に、「図書館グローバルデザイン・ワーキング・グループ」（以下、グローバルWG）が設置された。グローバルWGの詳細および平成27・28年度の活動の詳細は、研究開発室年報第5号に掲載の記事「一橋大学附属図書館 図書館グローバル・デザイン・ワーキング・グループ活動報告」¹を参照されたい。

平成29（2017）年度、グローバルWGが中心となり、一橋大学附属図書館利用案内の英語版（以下、英語版利用案内）の大幅な改訂を行った。なお、平成29年4月時点のグローバルWGの構成員は、主査1名（学術情報課課長代理）、係員4名（学術情報課図書情報係、雑誌情報係、目録情報係、利用者サービス係）、オブザーバー1名の計6名だった²。

本稿では英語版利用案内リニューアルの経緯を報告するとともに、今後の活動予定および課題について述べる。

2. 一橋大学附属図書館利用案内の歴史

平成29（2017）年度の英語版利用案内リニューアルに至るまでの経緯として、一橋大学附属図書館における利用案内がどのように変遷してきたかを、日本語版と英語版のそれぞれについて概観する。

2.1 日本語版利用案内

一橋大学附属図書館では、自館の利用案内を昭和37（1962）年から所蔵している。これによると1962年発行の利用案内は24ページから成る小冊子で、写真は全くなく、半分以上のページが自館の目録と分類の説明に充てられていた（図1）。

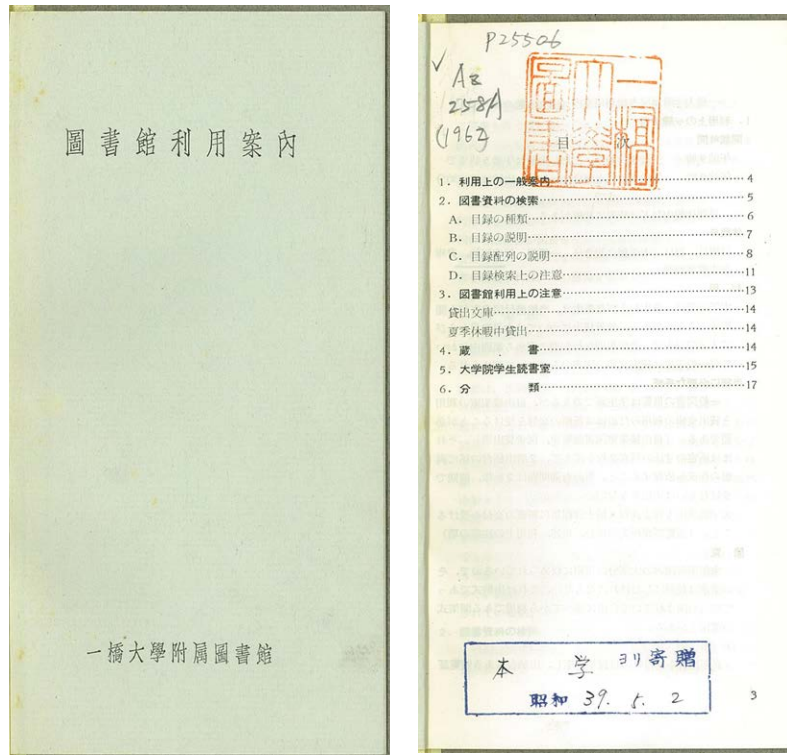


図1 1962年の利用案内



図2 1969年の利用案内

図3 1972年の利用案内

1969年の利用案内には写真やフロア案内図も含まれ、閲覧や貸出手続きの詳しい説明も掲載されるようになった(図2)。1972年には内容が大幅に絞り込まれ、開館時間、目録の調べ方、利用手続き、フロア案内図が8ページに凝縮された(図3)。

1978年には20ページ程度に再び増加し、本文はモノクロ印刷だが、表紙にはカラー写真が用いられるようになった(図4)。それから判型やデザインの変更はあるものの、20ページ程度で資料の探し方、利用手続き、フロア案内、分類などを概説するという形式は1990年代まで続いた。1992年からは目次が表紙に掲載され、利用者からの質問に基づく形で案内が構成されるようになった(図5)。

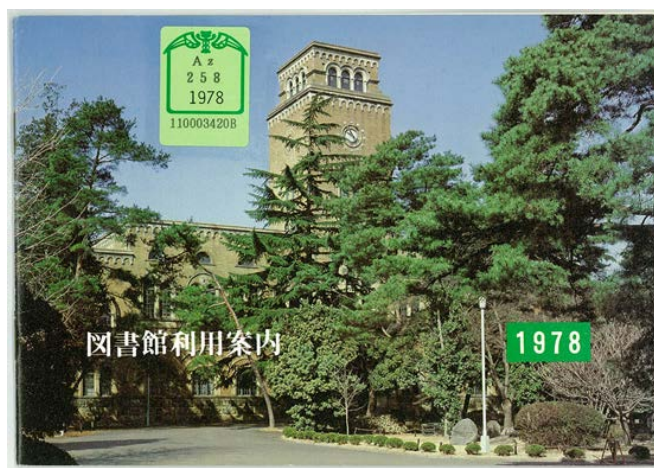


図4 1978年の利用案内

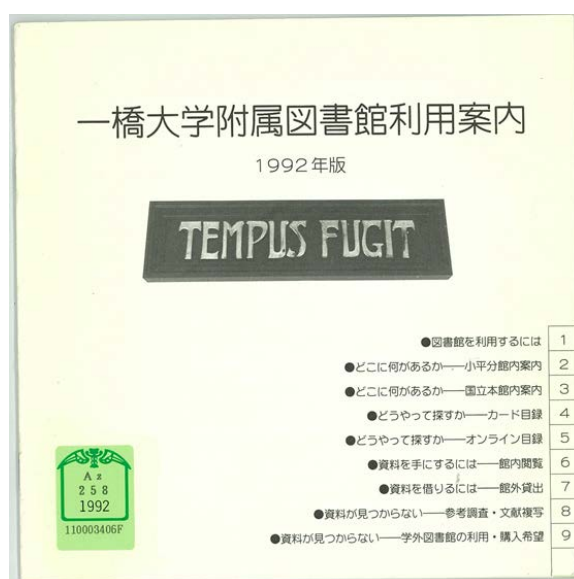


図5 1992年の利用案内

2000年10月に一橋大学附属図書館が大幅に改築されたことに伴い、利用案内も一新した。改築後の図書館の写真を多用した、カラーA4判で観音開き（8ページ）の利用案内が作成された（図6）。改築による館内スペースの拡充や、オンラインサービスの充実に伴う新たな情報が掲載されるようになった。

2014年度まで日本語版利用案内はこのA4判観音開き8ページの形式で作成されたが、毎年の更新を繰り返すうちに、次第に紙面が煩雑になっていった。またA4判という大きさも持ち運びにはややかさばるため、内容・形式ともにコンパクトに整理し直すことを目指し、2015年にA5判8ページへとリニューアルされた（図7）。

日本語版利用案内は2015年から2018年3月現在まで、このA5判8ページの形式で作成している。2015年度版のリニューアルに当たっては、2014年までの利用案内から内容を絞り込み、必要な情報がすぐ目に入ることを目指した。具体的には、立体的なフロアマップやオンラインサービス画面のスクリーンショットなどを掲載し、文字数をできるだけ増やさずにカラーの図表や写真を効果的に使用することで、視認性を高める工夫をした。

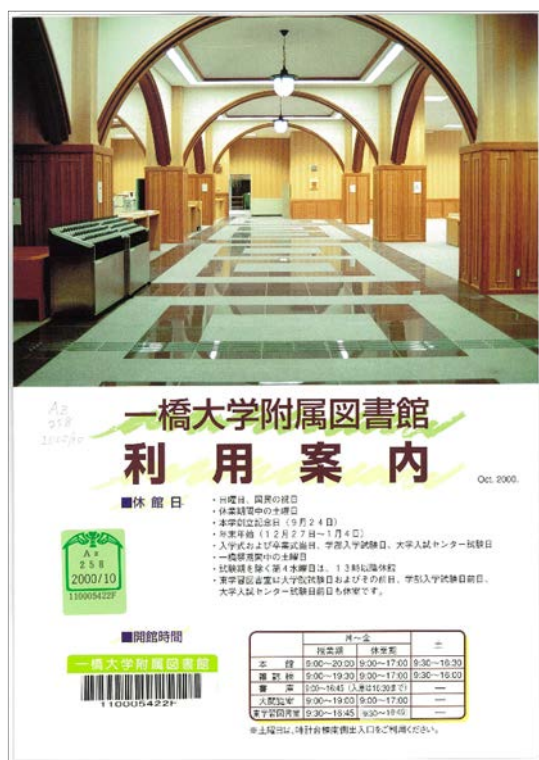


図6 2000年の利用案内

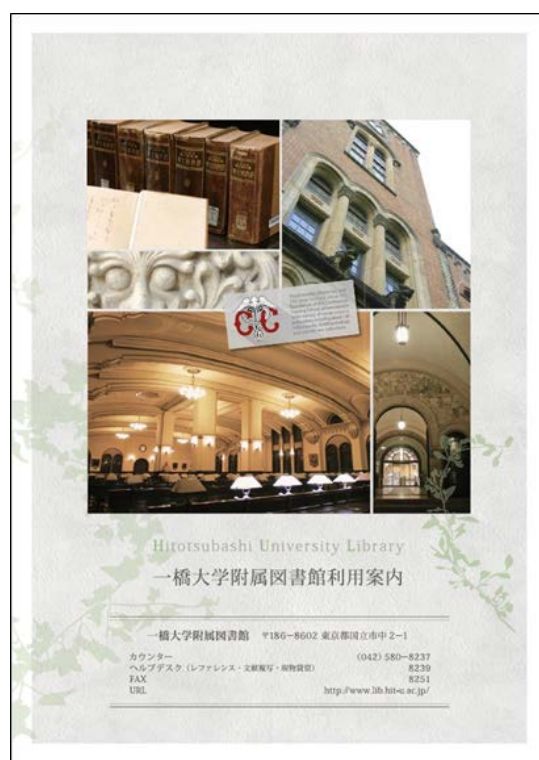


図7 2015年の利用案内

2.2 英語版利用案内

一橋大学附属図書館で英語版の利用案内が初めて作成されたのは、図書館の改築と時を同じくして2000年10月だった。この英語版利用案内は、コンパクトな三つ折りのリーフレット形式だった。一橋大学附属図書館の歴史、蔵書冊数、資料の探し方、貸出冊数・期間、図書館のフロア案内、開館カレンダーが掲載され、シンプルながら凝縮された内容だった。

その後、英語版利用案内は2016年度まで同じ形式を踏襲して作成された(図8)。毎年必要最低限の修正は行っていたが、カラー写真やフロア図を用いて視認性を高めた日本語版利用案内と比べると、手作りの英文利用案内がやや見劣りするようになってきたことは否めなかった。

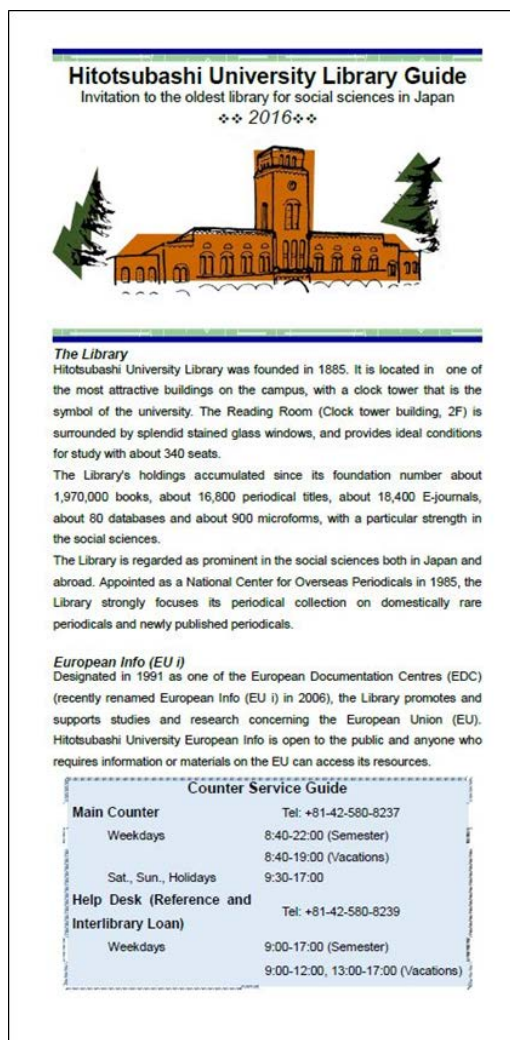


図8 2016年度の英語版利用案内

英語版利用案内を見直すきっかけとなったのは、2015年度にグローバルWGが中心となって『一橋大学附属図書館概要』の英語版(以下、『英文概要』)を作成したことも関連する。

『英文概要』は、図書館の基本的なデータや活動内容を英語で簡潔にまとめたもので、海外からの来客などに図書館を紹介する資料として活用されている。英語版利用案内に掲載されていた図書館の歴史や蔵書数などの情報が『英文概要』と重複するようになったため、図書館の利用に関する情報をより充実させる形で英語版利用案内を改訂できないかが議論に上った。そこで2017年度のグローバルWGの活動目標として、英語版利用案内のリニューアルが位置づけられた。

3. 英語版利用案内リニューアル

3.1 英語版利用案内リニューアルの方針

2017年4月にグローバルWGで打合せを行い、英語版利用案内をどのように改訂していくか話し合った。4月の打合せでは、現行の英語版利用案内から改善すべき点として、利用者にとって必要な情報が目に入りやすいよう、視認性の高いデザインにしたいという方針を確認した。英語版利用案内にどのような情報を掲載し、どのようにデザインするかは引き続き検討することとなった。

5月に再び打合せを行い、2017年度現在の日本語版利用案内を英訳する形で作成するか、日本語版と異なる形式で新たに作成するかを話し合った。検討の結果、2017年度の日本語版利用案内には重要な情報が見やすく配置されているため、日本語版のデザインに基づいてテキストのみ英訳する形で英語版を作成することとした。

なお、当時の英語版利用案内は館内のプリンタで印刷していたため、リニューアルに際しても引き続き館内の印刷機を使用して、新しい英語版利用案内を試行的に作成することとなった。

3.2 英語版利用案内リニューアルの作業

新しい英語版利用案内は、2017年9月中旬に行われる新入留学生のための図書館ツアーで配布することを想定し、9月上旬の完成を目指すこととした。そのため6月中旬にテキストの英訳を作成し、7月に館内で確認して内容を確定させ、8月には英文校閲(ネイティブチェック)に出すというスケジュールを設定した。

まず6月のうちに、現行の日本語版利用案内から1~2ページずつをWGメンバーで分担して、テキスト部分の英訳を行った。各自が作成したテキストを7月初旬に読み合わせ、表

現の統一や修正点の確認を行った。テキストの統合にあたっては、既に図書館の掲示やウェブサイトに掲載されている英語と齟齬がないよう留意しつつ、より簡潔な表現となるように工夫した。また、編集に用いるデザインソフトの勉強会も行い、レイアウトの調整や画像の差し替え方法を確認した。

7月中旬にテキストを確定させ、デザインソフトを用いて英語版利用案内の紙面を作成した。基本的には日本語版利用案内と同じレイアウトとしたが、テキストを取めるために行間を詰めたり、図書館オンラインサービスの画像を英語版ウェブサイトのスクリーンショットに差し替えたりして編集作業を行った。7月下旬には、試作した英語版利用案内を館内に回覧し、内容の確認を依頼した。文字数やレイアウトの制約上、紙面に反映することが困難な指摘については、2018年度以降の検討事項とした。

8月に学内事業の英文校閲を受け、英語表現やレイアウトを微調整した。9月上旬に紙面を確定させて館内で印刷を行い、英語版利用案内のリニューアルが完成した(図9)。

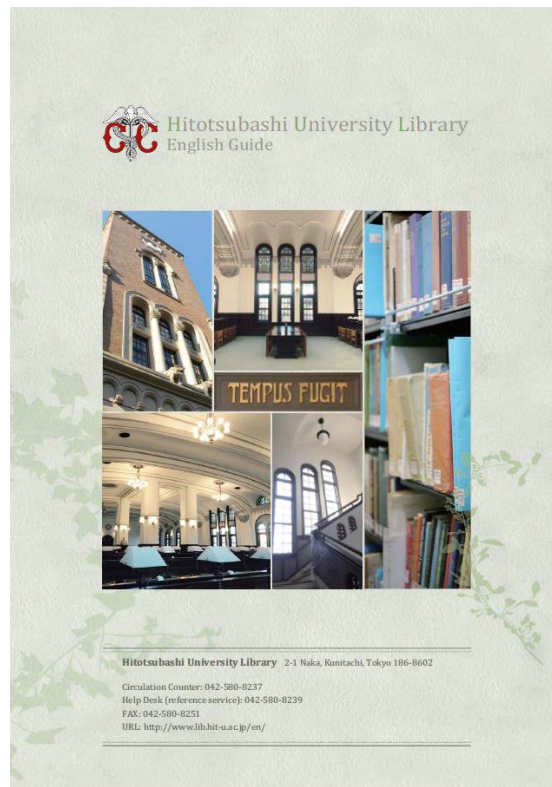


図9 2017年リニューアル後の英語版利用案内

3.3 英語版利用案内リニューアル後の配布・公開・反響

リニューアルした英語版利用案内は、一橋大学附属図書館内に設置・配布するとともに、図書館の英語版ウェブサイトにも掲載した。図書館の情報をわかりやすくまとめた資料として、海外から一橋大学への留学生や訪問者に対する情報提供に役立っている。

2017年9月14日に行われた新入留学生のための図書館ツアーでは、リニューアルしたばかりの英語版利用案内を配布した。図書館の開館時間や貸出冊数・期間が見やすく掲載されたことで、図書館ツアー中や質疑応答の際に、利用案内を見せながら説明することが可能となり、ツアーの円滑な進行に役立った。

また、千代田キャンパスに位置する一橋大学国際企業戦略研究科図書室にも英語版利用案内を設置・配布した。千代田キャンパスには英語で授業を受ける留学生が多数在籍することから、英語版利用案内の配布数が伸びているという。

4. 2018年度の図書館利用案内について

2017年9月にリニューアルした英語版利用案内が好評だったことから、2018年度からは英語版も日本語版と同様に印刷会社に発注することが可能となった。2017年12月から2018年2月にかけて館内での確認と校正を進め、3月初旬に完成した(図10)。

印刷会社への発注によって、より見栄えのするデザインができるようになり、2017年9月リニューアル時に反映し切れなかった指摘に対応することも可能となった。具体的には、日本語版と英語版を見分けやすくするために表紙の色を変えたいという要望が利用者サービス係からあったため、印刷会社に表紙色の変更を依頼した。その結果、日本語版は従来通り緑色、英語版は桜色で表紙を作成することとなった。

内容についても、2018年度に向けて日本語版と英語版の利用案内を同時進行で確認したことで、改善すべき点を洗い出すことができた。一例として、学外利用者の入館方法を表の形で示し、入館時の手続きや利用の範囲が一覧できるようにした。

なお、2018年度の図書館利用案内では、初めての試みとして、一橋大学写真部との協働により表紙の写真を決定した。一橋大学写真部に図書館の写真を募集し、応募作の中から、図書館員の投票によって第一位に選ばれた写真が2018年利用案内の表紙を飾ることとなった。今後もこうした試みを通じ、利用者にとって図書館利用案内がより身近な存在となることが望まれる。

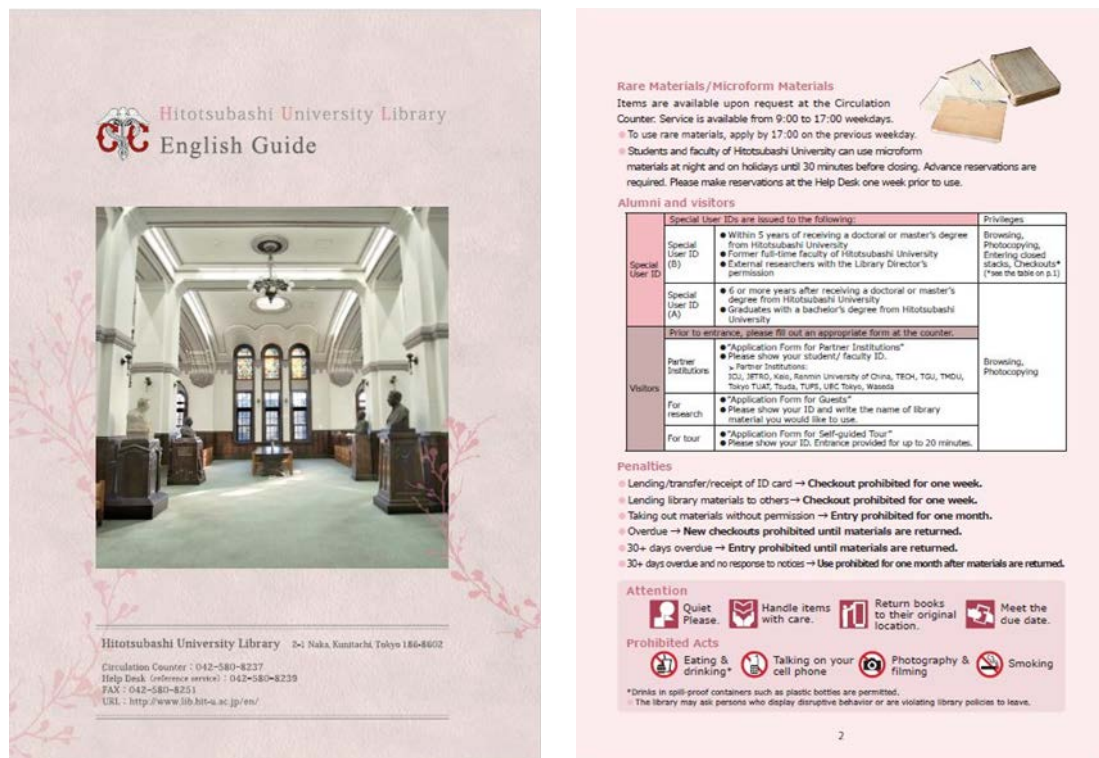


図 10 2018 年度英語版利用案内

5. 今後の活動と課題

2015 年度の英文概要の作成と、2017 年度の英語版利用案内のリニューアルにより、グローバル WG の設置要領にある目的の 1 つである、図書館概要などの各種案内の多言語化はかなりの程度まで達成できたと考えている。また 2017 年度も新入留学生に対して年 2 回（4 月・9 月）のツアーを行うことができた。その他の活動についても、引き続き検討・実施を行っていく予定である。

今回の英語版利用案内のリニューアルは、図書館が提供する情報を利用者の視点から改めて見直すきっかけとなった。英語版利用案内は日本語版利用案内に比べて内容やデザインの更新が滞りがちであったが、今回のリニューアルで日本語版と同じ形式となったことで、日本語版・英語版ともに 2018 年度以降の利用案内の更新作業が円滑に進められるようになったといえる。2017 年度の英語版の利用案内リニューアルと、2018 年度に向けての日本語版・英語版利用案内の更新を通じて、グローバル WG をはじめ館内で利用案内を再検討できたことの意義は大きいと考えている。

図書館利用案内には「どのような情報を利用者にとって提供するか」という図書館の姿勢が端的に表れるといえる。一方で利用案内にはページ数の制約もあるため、より詳しい情報に

については図書館ウェブサイトや窓口で適宜補完することが必要になる。今後もどのような情報が利用者にとって必要で、どのように提供すれば伝わりやすいのかを、幅広い観点から模索したいと考えている。

¹ 藤井眞樹. 一橋大学附属図書館 図書館グローバル・デザイン・ワーキング・グループ活動報告. 一橋大学附属図書館研究開発室年報. 2017, no. 5, p. 112-123 (オンライン), <http://doi.org/10.15057/28666> (参照 2018-03-01).

² その後人員の増減があり、2018年3月現在のWGの構成員は、主査1名（学術情報課課長代理）、係員3名（人事異動のため1名減）、オブザーバー2名（新たに研究開発室助教が参加）の計6名である。

[Report]

Renewal of Hitotsubashi University Library English Guide : report on the activity of Global Design

Working Group in 2017

Terashima, Kumiko.

Circulation Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information,
Hitotsubashi University